

テーマ：空っぽのこの世の哲学に騙されず、満ち満ちたキリストに根ざして歩いていくこと

※箴言 16:25

「人の目にはまっすぐに見える道がある。その道の終わりは死の道である。」

○空っぽの哲学か? 満ち満ちたキリストか? :

1. 空っぽの哲学の“危険性”(8)

▶「注意しなさい」

▶「だれのとりこにもならぬよう」

▶「哲学」(_____ “フィロ”+ _____ “ソフィア”)

※箴言 4:6-8

「知恵を捨てるな。それがあなたを守る。これを愛せ。これがあなたを保つ。知恵の初めに、知恵を得よ。あなたのすべての財産をかけて、悟りを得よ。それを尊べ。そうすれば、それはあなたを高めてくれる。それを抱きしめると、それはあなたに誉れを与える。」

「もし哲学というものが、現実全体に関する明瞭さと理解を求めることを意味するのであれば、クリスチャンはある意味で哲学しなければなりません。しかし、その探求においては常に神様の啓示の光の導き、制限、批評に従わなければなりません。もし哲学というものが、神様の啓示を尊重することなく、人間の基本的な疑問に関して、人間的な思索(しさく)を行うことを意味するのであれば、間違いなくクリスチャンはそんな哲学を自分の人生や使命からできる限りなくそうとすでしょう。」(S・ルイス・ジョンソン)

※イザヤ 43:7

「わたしの名で呼ばれるすべての者は、わたしの栄光のために、わたしがこれを創造し、これを形造り、これを造った。」

▶「人の言い伝えによるもの」

「コロサイ教会の設立の基盤となった伝統は、神によって認証されたものでした(イエス・キリストは神の知恵であり奥義でもありました)。それに対し、その伝統を無視するような『哲学』は、どんなものであろうと人間が起源のものとしか考えられません。」(ジェームズ・ダン)

※マルコ 7:8-9

「あなたがたは、神の戒めを捨てて、人間の言い伝えを堅く守っている。…あなたがたは、自分たちの言い伝えを守るために、よくも神の戒めをないがしろにしたものです。」

▶「この世の幼稚な教えによるもの」(2017年版「この世のもろもろの霊によるもの」)

※ヘブル 5:12

「あなたがたは年数からすれば教師になっていなければならないにもかかわらず、神のことばの初歩をもう一度だれかに教えてもらう必要があるのです。あなたがたは堅い食物ではなく、乳を必要とするようになっています。」

「むなしい哲学のために聖書の真理を放棄することは、博士号を取得した後に幼稚園に戻るようなものです。」(ジョン・マッカーサー)

※ヨハネ 14:6

「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。」

2. 満ち満ちたキリストの“安全性”(9-10)

※ヨハネ 1:1-2

「初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。この方は、初めに神とともにおられた。」

※ヨハネ 1:14

「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。」

※マタイ 8:26-27

「イエスは言われた。「なぜこわがるのか、信仰の薄い者たちだ。」それから、起き上がって、風と湖をしっかりとつけられると、大なぎになった。人々は驚いてこう言った。「風や湖までが言うことをきくとは、いったいこの方はどういう方なのだろう。」

※マルコ 2:5-7

「イエスは彼らの信仰を見て、中風の人に、「子よ。あなたの罪は赦されました」と言われた。ところが、その場に律法学者が数人すわっていて、心の中で理屈を言った。「この人は、なぜ、あんなことを言うのか。神をけがしているのだ。神おひとりのほか、だれが罪を赦すことができよう。」」

※マルコ 2:10

「人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを、あなたがたに知らせるために。」

※2 ペテロ 1:3

「というのは、私たちをご自身の栄光と徳によってお召しになった方を私たちが知ったことによって、主イエスの、神としての御力は、いのちと敬虔に関するすべてのことを私たちに与えるからです。」